

対戦相手の分析任せて

鈴木さん(3年)ら光星データ班

甲子園初戦勝利に貢献

全国高校野球選手権大会に出場している八戸学院光星の戦いを支えているのが、試合映像などから相手校の分析を担当する「データ班」。初戦の創志学園（岡山）戦では試合前に相手投手の配球パターンを割り出し、勝利に貢献した。12日には強豪・愛工大名電（愛知）との2回戦を控える。データ班の一人、鈴木成尚さん（3年）は「相手エースが得意とする球種やコースは分かってきた」と情報分析に自信を深めている。（福田駿）

きょう2回戦

光星の今季のデータ班は、鈴木さんと学生コーチの池田真瞳さん（3年）、津田勇志コーチの3人。1回戦翌日の8日から愛工大名電の研究を急いできた。

鈴木さんと池田さんがデータ班の一員となったのは、いずれもけがが原因だった。

このうち、鈴木さんは茨城県出身だが、母親が十和田市出身で光星OGだったこともあり、幼い頃から光星の野球に憧れた。ただ、今春の練習試合で左膝半月板を損傷し、手術が必要になった。選手としては「最後の夏」を諦めざるを得なくなった。ただ、チームの力になりたいとの思いから、自らデータ班入りを志願した。

データ班として、時にはほぼ休みなしで12時間ほど



対戦校を分析する鈴木成尚さん。データ班としてラインの活躍を支えている11日、大阪府内（チーム提供）

対戦校の映像を研究することもあるが、音を上げることはない。「一人一役、全員主役」を標ぼうするチームで、勝利に貢献したいーとの思いがあるからだ。甲子園1回戦ではデータ班の活躍もあり、相手投手を完全攻略。鈴木さんは試合後、仲井宗基監督や主砲の野呂洋翔選手から「分析通りだった」と謝意を告げられたといい、「何よりも選手がグラウンドで活躍してくれてうれしかった」とはにかんだ。2回戦の愛工大名電も手ごわい投手がそろって、鈴木さんは「狙い球は分析できる」ときっぱり。試合中は勝利を祈って、アルプススタンドからラインの戦いぶりを見守るつもりだ。

全力で応援するぞ!!

光星応援団第2陣出発



甲子園に向かうバスに乗り込む生徒
=11日、八戸学院光星高

兵庫県西宮市の甲子園球場で行われている全国高校野球選手権大会で、12日の2回戦に挑む八戸学院光星ナインの応援団約280人が11日、八戸市の同校をバス9台で出発した。一行は

12日午前10時半開始予定の試合で、アルプスタンドから熱烈にナインを後押しする。
同校で行われた出発式では、中村良寛校長が「勝てばベスト8も見えてくる。」

皆さんの力で何とか勝たせてほしい」と訴え、生徒と共に勝利を願って氣勢を上げた。

生徒を代表し、現地での臨時チアリーダーに名乗りを上げた下館彩華さん(2年)はソフトテニス部新部長が「1回戦の勢いを加速させ、3回戦に進めるよう全力で応援しよう」と士気を高めた。

一行は笑顔でバスに乗り込み、甲子園に向かった。1回戦に続いて参加する吹奏楽部の中村匡玖さん(3年)は「初戦はあれだけの舞台で演奏できて達成感があった。2回戦の相手は吹奏楽部も強豪なので、負けないように光星サウンドをとどろかせる」と意気込んでいた。

(澤田淳一)